

走行中にクリアな会話や音楽が楽しめる!



Bluetoothを搭載したインターコムを使えば、走行中の会話はもちろんナビの音声やオーディオの音楽が楽しめ、携帯の着信も可能なのだ

文/中野仁史

PART 02 INTERCOM



音声がよくキレます!

Bluetooth搭載だからね!

最新インターコムがあればツーリングスタイルが一変

高速道路での二人乗りが解禁されて以来、タンデムでツーリングするという人たちが増えている。そして、タンデムツーリングをより楽しく快適にするアイテムが、ライダーとパッセンジャーが通話できる「インターコム」だ。

従来のインターコムは、1つのアンブに2つのヘッドセットを接続する有線式が主流だった。しかし、バイクに乗り降りするたびにいちいちコードのコネクタを抜き差しする必要があり、わずらわしかった。また、一部に微弱電波を使用した無線式もあったが、通信がアナログで混信することがあり、音質も良くなかった。

そうした従来のインターコムの欠点を解消し、さらにプラスαの機能を盛り込んだのが「Bluetooth」を採用したインターコムだ。Bluetoothは、携帯電話のハンズフリー通信やパソコンの無線LANなどに使われている短距離デジタル無線の規格で、信号を暗号化することで混信や盗聴を防いでいるのが特徴。しかも、使

用するにあたって無線従事者の免許がいらないというのもポイントと言える。

また、Bluetoothの規格には通話レンジが3段階あるが、クラス2でも10m、クラス1なら100m以上と長い。そのためタンデムだけでなく、別々のバイクのライダー同士で会話することも可能なのだ。

さらに、Bluetooth採用のインターコムはヘッドセットの役割も果すので、Bluetooth対応の携帯電話を持っていれば、走行中に電話を受けたり掛けたたりすることも可能。ハンディナビの音声案内を聞いたり、ポータブルオーディオの音楽を聴くこともできるから、「自分はソロツーリングしからない」という人でも十分に利用価値があるのだ。

ただし、接続できる機器の種類や個数、どの機器を優先して接続するかなどは、インターコムごとに異なる。そのため、購入するときは自分がどういった目的で使いたいかを明確にし、それに合ったものを選ぶようにしよう。ピタリ製の製品が見つければ、ツーリングスタイルが一新するはずだ。

インターコムがあるこんなに楽しい!

Bluetoothを採用したインターコムなら
タンデムでの会話だけでなく幅広い用途に使える

2人以上で使う場合

ツーリング中に会話が楽しめる

インターコム



インターコム



道の駅
でも行く?

そーだねー

タンデムで使う場合

タンデムでの会話は、風切り音やエンジン音にかき消されて意外と成立しない。その点、インターコムを使えば電話で話しているように同時通話ができるので、楽しいし安全でもある



海辺は
気持ちいい

マストツーリングの場合

2台でツーリングするときにも便利。通話距離が100m以上の製品なら、マストツーリングの先頭と最後尾が連絡を取ることも可能だ

1人で使う場合

ナビやレーダーの音声も聞き 携帯電話の通話も可能!

インターコム



ナビ



レーダー



オーディオ



携帯



Bluetooth対応で、同じプロファイルの機器であれば、インターコムを使って電話に出たり、音声案内を聞いたり音楽を楽しむことができる。こうした利用方法だけなら、ペアではなく1つだけ購入するのでもいいだろう

使い方・取り扱いが簡単



ほとんどのインターコムは、本体をヘルメットの帽体のふちにクリップで挟み込むように装着する。そのため、脱着も簡単だ



機器の断続やボリュームなどは本体のスイッチで行なうが、走行中にも操作しやすいよう工夫を凝らした設計がされている



「インターフォン」などの一部の機種は、防水設計となっているため、ツーリングの途中で雨が降ってきても、そのまま使用できる

購入前に知っておきたいインターコム用語

Bluetooth

2.4Gの電波を使ったデジタル無線で音声やデータの通信をする技術。ひと口にBluetoothといってもいろいろな規格があり、ヘッドセットのHSP、携帯ハンズフリーのHFP、ステレオ音楽のA2DPなどが採用されている。通信距離 (RFレンジ) は3段階あり、インターコムには10m程度の「クラス2」と100m以上の「クラス1」が使われている

ペアリング

どの機器と無線接続するかを決める登録作業のこと。ID交換など認証作業が必要だが、一度接続できれば電源を切っても情報は記憶される

チャンネル

Bluetooth機器を接続できる数のこと。3チャンネルならインターコム同士の接続のほか、あと2つ (携帯電話やナビなど) に接続が可能だ

優先順位

Bluetoothは1対1の通信なので、インターコム同士で会話をしているときに電話がかかってきたらそちらを優先する、といった順位がある

音声応答着信機能

携帯電話に着信があったとき、声を出すだけで通話を開始する機能のこと。機器の相性で使えないこともあるので、購入前に確認しておきたい

プロファイル

Bluetooth搭載の機器同士の無線通信を成立させるルールのこと。同じプロファイルであれば、メーカーが異なっても通信できるのだ

トランスミッター

Bluetoothを搭載していない機器に装着して、通信を可能にする装置。モノラルのBluetoothをステレオにすることもできる

インターコムガイド

用途に合わせて選ぶ

INTERCOM GUIDE

Bluetoothを採用したインターコムはメーカー各社から発売されている
本体の機能と自分の使い道を考えてセレクトしてみよう

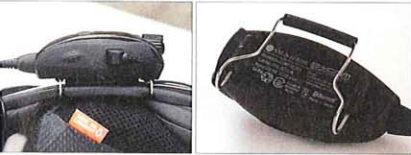


ノイズキャンセリング回路によって電氣的に風切り音やエンジンノイズを消すため、クリアな音声で会話を楽しめるのが特徴だ



ボタンが少なく操作しやすい

操作ボタンは本体の側面と上下に分かれていて、後端にはグローブをはめたままでも操作しやすいダイヤル式のボリュームが備えられている



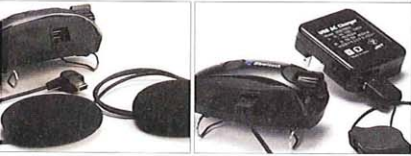
帽体への固定が簡単

ヘルメットへの装着は、針金状のクリップで帽体のふちを挟み込むタイプ。脱着は簡単だが、帽体の形状によっては面ファスナーなどを併用したい



マイクが別体で不要時に外せる

従来は一体型だったマイクは、SB213では別体式に変更。通話をしていないときは、マイクを取り外した本体部分にキャップをはめることができる



一つのジャックを併用

スピーカー用ジャックは充電用ジャックを兼ねていて、2台同時に充電できるのが便利。従来より充電時間を40%も短縮し、連続使用時間も2倍以上としている

SYGN HOUSE

B+COM SB213

価格：6万5100円（ペアユニット）
3万4956円（シングルユニット）
問：サインハウス TEL03-3702-5050
<http://www.bolt.co.jp/>

| | | |
|--------------|--------------|------------------|
| 通信距離 100m | 通話時間 10時間 | 防滴 |
| 充電式 1.9時間 | ボタン数 4 | 3ch+マルチ ブル1ch |

機能や拡張性に優れ
ハードユーザーのニーズに応える

こんなライダーにオススメ

通信距離が100mと長いので、マストレーディングのライダーやサブリーダーを務めるような人に最適だ。また、最大8台の機器とペアリングできるマルチプル機能を搭載しているため、集団でツーリングしたり、2台以上の携帯電話を使い分けているという人には便利。重低音を重視して直径55mmの大型スピーカーを採用しているから、音楽の音質にこだわる人にも向いている。

サインハウスがバイク用に独自に開発した、Bluetooth採用の軽くてコンパクトなインターコムがビーコム。

SB213はその最新型で、Bluetoothのバージョンも最新の2.1+EDRを搭載している。さらに、バイク用インターコムとしては初めての「マルチプル機能」により、ひとつのチャンネルに最大8台の機器をペアリングすることが可能。

そのほか、RFレンジは100mにも達する「クラス1」で、タンドムだけでなく、一緒に走行しているバイク同士の通話も可能。ノイズキャンセリング回路によって音声がクリアなのはもちろん、スピーカーの音質も優れている。

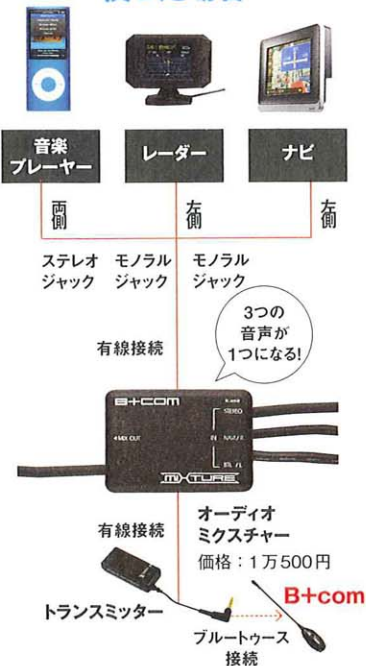
B+COMならではの拡張性を活用しよう!

Bluetoothは同時に複数の音声を聞くことができないが
オーディオミクスチャーを使えばそれが可能になるのだ

VERSION UP

音楽を聴きながら ナビとレーダーの 音声も聞ける!

オーディオミクスチャーを 使った場合



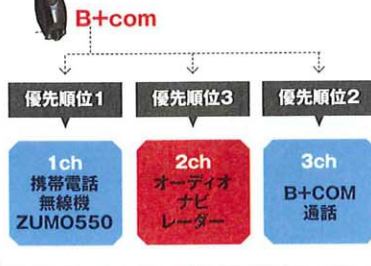
ステレオジャックに音楽プレーヤー、モノラルジャックにナビ、BLTモノラルジャックにレーダー探知機を接続するというのが推奨例。音量はデバイス側で調整する

音楽を聞きながら
ナビとレーダーの音声も聞ける!



Bluetoothのシステム

Bluetoothは1対1が原則なので、チャンネルには優先順位が決められている。そのため、音楽を聴きいているときに会話を始めると音楽は聞こえなくなるし、携帯電話に電話が掛かってくるとその相手としか話せなくなるのだ



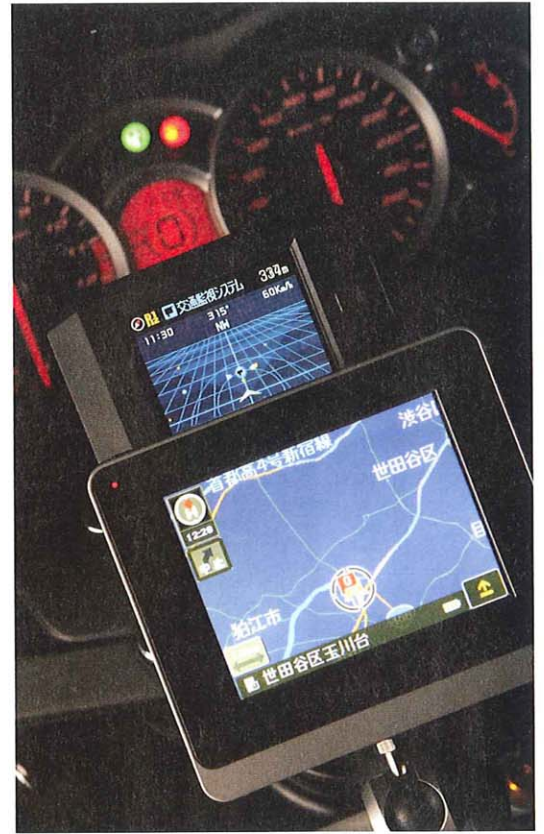
※ZUMO550は例外的に1chに配置

音楽やレーダー、ナビの
音声を同時に聞けない

Bluetoothは、データや暗号化するため混信や盗聴の心配がないが、通信は1対1が原則。そのため、いくらチャンネル数が多くても音楽を聴きながらナビやレーダー探知機の音声を、同時に聞くことはできなかった。

そこで考えられたのが、ひとつのチャンネルに複数の音源を盛り込むという方法。それを可能にするのが、サインハウスが開発した「オーディオミクスチャー」だ。これを、ナビなど複数の機器と無線を発信するトランスミッターに接続すると、ステレオ音楽を流しつつ、右のスピーカーでナビの音声案内を、左のスピーカーでレーダー探知機の警告音を聞けるようになるというわけ。

サインハウスが取り扱う機器であれば、Bluetoothの接続の相性や音量の干渉問題も検証済み。これから買うなら、同社製品で揃えるというのでもいいだろう。



Bluetoothは、データや暗号化するため混信や盗聴の心配がないが、通信は1対1が原則。そのため、いくらチャンネル数が多くても音楽を聴きながらナビやレーダー探知機の音声を、同時に聞くことはできなかった。

そこで考えられたのが、ひとつのチャンネルに複数の音源を盛り込むという方法。それを可能にするのが、サインハウスが開発した「オーディオミクスチャー」だ。これを、ナビなど複数の機器と無線を発信するトランスミッターに接続すると、ステレオ音楽を流しつつ、右のスピーカーでナビの音声案内を、左のスピーカーでレーダー探知機の警告音を聞けるようになるというわけ。

フェイスプレートで 色鮮やかなドレスアップ



フェイスプレート
価格：1050～1575円

ビーコムは、本体のフェイスプレートの着せ替えが可能。ヘアラインシルバーや豹柄などがある。価格も1個1050～1575円とお手頃だ

VERSION UP

ウェブサイトから手持ちの B+COMをアップデート

日進月歩のデジタルツールは、旧式化するのも早い。その点、ビーコムのSB213はプログラムのアップデート機能を搭載。パソコンで最新のプログラムをダウンロードし、同梱の通信専用USBケーブルを使ってビーコムに接続すれば、ファームウェアのアップデートが可能になるのだ。



VERSION UP

トランスミッターを使えば ZUMO550の音質が向上

ガーミンのZUMO550（ホンダのギャザズMを含む）はMP3プレーヤーのデータをモノラルで送るため、臨場感がないという不満が。ところが、オーディオ用のトランスミッターを接続すればステレオで聴くことができるのだ。



誰でも取付け
できちゃいます!

インターコムの ヘルメットへの 取付けは とっても簡単



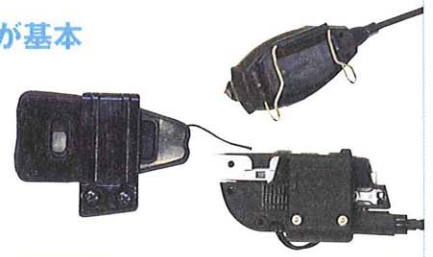
インターコムと帽体をクリップで固定
後はスピーカーをセットするだけだ

ビーコムの装着は、インターコムでは一般的なクリップ式を採用している。取付けの手順は右の写真の通りで、難しいことは何もない。ポイントを取って言えば、スピーカーと耳が密着するように、付属している2mmと5mm厚の調整パッドを選ぶこと（2枚合わせて7mmとして使うことも可能）くらいだろう。

なお、メーカーによっては帽体ごとに最適な形状のクリップを用意しているところもある。

帽体への取付けはフックが基本

インターコムは、ケテルのベアリザードを除いて本体をヘルメットの帽体に取付けるが、その方法は針金状のフックを使うのが一般的だ。面ファスナーを使うよりも確実に、帽体に加工を施す必要もない。脱着しやすいのもメリットだろう。



ビーコムの場合



① 先に左耳のスピーカーを取付ける。耳が密着するように付属のパッドで調整しよう



② 先に左耳のスピーカーを取付ける。耳が密着するように付属のパッドで調整しよう



③ 内装をめくり上げて、左右のスピーカーを繋いでいる配線をその内側に通す



④ ビーコム本体をヘルメットの左側に取付けクリップでしっかりと固定する



⑤ もう片方（右側）に固定用のシートを貼り付け、スピーカーを取付ける



簡単ネ!

⑥ スピーカーケーブルを本体に接続して完了。ネジを締めつけるなどの作業がなくて簡単だ

Bluetooth機器同士の ペアリングの仕方は?

Bluetooth機器は使用前に
ペアリングをすることで初めて利用できる

Bluetooth機器同士は、どの機器と通信を行なうかを事前に登録するペアリング作業だ。

機種ごとに細かい手順は異なるが、基本的には接続する機器を近づけて、決められたボタン操作を行なうだけ。あとは自動的に機器同士でデータのやりとりを行い、ペアリングが完了する。

なお、いったんペアリングができてしまえば、基本的には電源を切っても解除されることはない。

Bluetooth未搭載器は トランスミッターを使おう!

Bluetoothに対応していない機器でも安心。市販のトランスミッター（発信機）を組合せれば、Bluetoothで接続することができるようになる



インターコム同士の場合



インターコム（ビーコムの場合）同士の場合は、写真のようにボタンを長く押し続けてペアリングを行う。お互いが認識したら、通信が可能になる

インターコム×ナビ・携帯の場合



ナビゲーションや携帯電話のように画面がある機器は、その画面を見ながらペアリングできるので、比較的簡単だし確実にできる



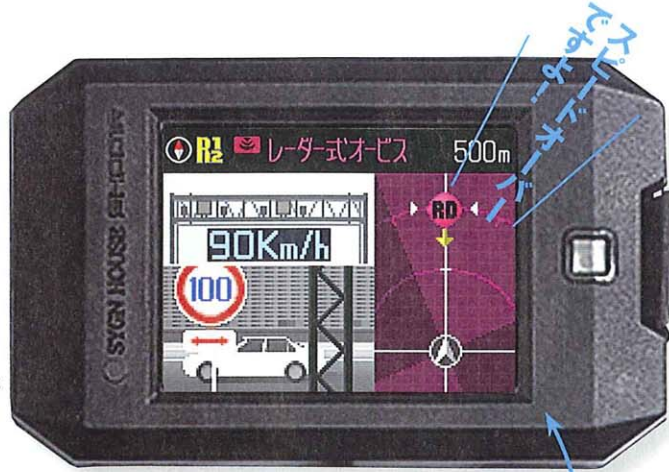
危機を感知・警告してくれるだけでなく
ツーリングを幅広く楽しませてくれる

写真/藤村のぞみ、宮田幸司 文/齊藤和弘

SYGN HOUSE
BIKE RADER
SH001R

5万2500円
問：サインハウス TEL03-3702-5050 <http://www.bolt.co.jp/>

ディスプレイ：カラー2.2インチIPS液晶
電源電圧：DC12V（マイナスアース車専用）
受信方式：[GPS部] 16チャンネル/パラレル受信方式
[レーダー部] スイープオシレーター式ダブルスーパーヘテロダイナ方式
サイズ：表示部 W88×H55×D16mm（突起部除く）、
アンテナ W61×H20×D45mm、
リモコン W34×H70×D16mm（突起部除く）、
ジャンクションユニット W42×H12×D38mm
防滴設計：IPX3相当（完全防水ではありません）



GPSアンテナやモニター部、ジャンクションユニットを中心に、スピーカーや取付ステーなど欲しいものはすべて同梱されるので、なにも買い足さずに装着できる

画面はターゲットが近づくとき自動切替!

ターゲットが接近すると待ち受け画面からレーダースコープ画面に切り替わり、さらに距離が縮まると警報画面になって、注意を喚起する



画面は最大4分割に!



①のアイコンエリアでは方位やGPS識別情報などを表示し、警報時には②のシンボルと③のアニメーションがスライドイン。④はレーダースコープだが、探知では青い画面が、警報時には赤い画面へと色を変化させる

その使いこなしはアナタ次第だ。

ターゲットは50識別が可能

GPS27識別

ループコイル、レーダー式オービス、取締エリア、検問エリア、取締・検問圏外識別、Nシステム、交差点監視ポイント、駐禁重点エリア、オービス制限速度など、緯度&経度情報から正確に警告してくれる

レーダー波3識別

ステルス波、通常レーダー波、1キャンセル告知などのレーダー波の発射をキャッチし、その受信レベルを5段階で表示する

無線14バンド識別

カーロケ無線、取締無線、取締特小無線、デジタル無線、ヘリテレ無線、レッカー無線、署活系無線、消防無線、消防ヘリテレ無線、新救急無線、JH無線、警察電話、警備無線、警察活動無線などを受信する

ベストパートナー6識別

並走追尾注意、すれ違い注意、取締注意、検問注意、カーロケ遠近識別、カーロケ圏内・圏外識別など状況をシミュレーションして安全なライディングのためのアドバイスをしてくれるので、走り専念できる

この高性能バイク専用レーダー探知器は、さまざまな情報を識別してライダーに教えてくれるのがいい。一般的なレーダーはオービスなどの取締まり探知がメインだが、このSH001Rはそんな「捕まらないうえ」に特化した製品ではなく、よりツーリングを楽しむための情報も教えてくれるのだ。

最近のビッグバイクはとも高性能で、スロットルをひねればあつという間に加速。高速巡航時も振動が少なく快適だから、ふと気がついたら制限速度を超過してしまったりする。そんなときに役立つってくれるのがこの「バイクレーダーSH001R」だ。

ライダーが求める情報を視覚と聴覚に伝えてくれる

多くの危機を回避しながら
旅に有益な情報まで



使い方

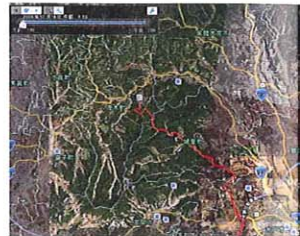
待受画面では速度や日時のほか、方位や緯度・経度が表示される。もし道に迷ったときも地図さえあればなんとかなるはず。2Dか3Dに設定するレジャー画面は進行方向を「常に上」か「常に北」か選べ、常に表示することも可能だ。

識別情報すべてを選ぶ「オールオンモード」でもいいが自分でチョイスしたもので警告するようにカスタムすれば混乱がないし、緊急度の高いターゲットひとつを範囲外まで自動追尾する「自動ロックオン」を駆使して自分仕様に仕立てていけば、きつと手放せなくなるはず。

こうしたGPSグッズは情報こそが命。多くのメーカーが半年に1度程度なのに対してユピテルは毎月更新している。このサービスは有料(2100円)だが、より旅を楽しむためには常に最新の情報を持って出かけたほうが有効なのは言うまでもないだろう。

ログ機能を搭載し走行ルートを グーグルアースで再現

本体が記録した走行データをSDカードにコピーしてパソコンに取り込んで「ユピテルログデータコンバータ」を使うと、その走行データをグーグルアースの衛星写真上にログ(軌跡)として表示できる。目線の高さや角度も設定可能だから、平面的な地図はもちろん、鳥瞰でルートを見渡すパードビューも楽しめる。帰ってからその日のルートを「ツアー再生」すれば、空から自分のツーリングを再度走れるというワケだ



LOG ドライブルート ログ機能 YUPITERU

業界初『ドライブルート ログ機能』(特許出願中)

MAP ドライブルート ログ機能対応リーダー 詳細が必要。 対応機種はこちら

ドライブルート ログ機能 トップ
 ログデータコンバータのダウンロード
 ログデータコンバータのインストール方法

ドライブルートを Google Earth(TM) 上に表示!

実際に走ったデータを録音本機に記録。そのデータをmicroSDカードにコピーして、パソコンにつなぐと、Google Earth(TM)の衛星写真上で走行したルート(軌跡)を再現。通過ポイントの情報が確認できる。更に目線の角度と高さの設定もでき、まるで鳥の目から、空から実際に走ったルートを見渡す、ツアー再生もできる!

【ドライブルート表示機能】

自分の走行したドライブルートをmicroSDに記録し、パソコンにつなぐとGoogle Earth(TM)上に表示できます。 通過ポイントの情報を録音本機(走行方向) 自身の走行したドライブルートのツアー再生もできます。 確認することができます。



スピーカーやリモコンを標準装備

ヘルメット内に両面テープで装着するスピーカーから、クリアな音声情報が得られる。目と耳からの同時警告だから確実なのありがたい。さまざまなコントロールはリモコンで行うが、車体に装備するか必要ときだけ取り出すようにするかはオーナーの好みでどちらでもかまわない



トランスミッター使用で B+COMと接続できる

このSH001RはBluetooth機能を搭載していないが別売のトランスミッター(9450円)を使えば、Bluetooth式インターコンのB+COM(シングル3万4965円、ペア6万5100円)との接続が可能

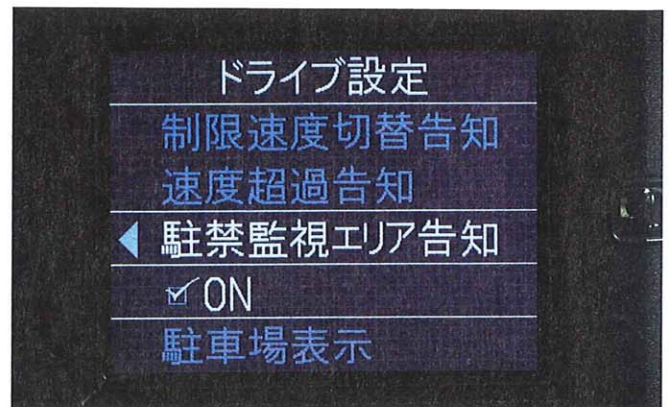


車体への装着も とてもスマートだ

表示部は付属のマウントを使ってタンク先端部などに装着。①のGPSアンテナはシート下に装着して②のジャンクションユニットを介して電源を確保。③のトランスミッターも②に接続することでBluetooth使用を可能にしてくれる

使い方に応じたセッティングが可能

ターゲット全50識別をフルに使うと膨大な情報が案内されることになる。場合によっては警告の連続になってしまうが、自分で必要な機能を絞り込めるので使いやすい。自宅付近を省いたローカルモードなど、多彩なモードが用意される





3位

CARDIO SCALA RIDER Q2

価格=4万2800円

最大通話距離約500m、連続通話時間約8時間のスペックを誇るヘッドセット。マイクとスピーカーを含む重量はなんと約90gという軽量モデルだ



1位

サインハウス B+COM SB213

価格=6万5100円(ペア)

従来のSB203の機能を大幅にアップし、タンデムやペアツーリング時に音楽やナビの音声も同時に聞くことも可能。シングル価格は3万4965円

cellular line interphoneF4

価格=6万2800円(ペア)

障害物がなければ通話距離100m以上を誇る基本性能の高いモデル。シングル価格は3万2800円



2位

CATEGORY

インターコム

主流はBluetooth

バイク用として発売されているBluetooth対応モデルは防水性や使いやすさも向上し、機能的には十分。ただ、タンデム通話のみであれば有線のモデルが安価で販売されていて、無線形式より音声もクリアに聞こえる。最近の注目は免許がいらない特定小電力無線。トランシーバー型で、業務用にも使用されていることから通話距離や音声のクリア度もワンランク上。価格も手頃で、マストリングで利用するならこちらのほうが便利だ。

CATEGORY

車載カメラ

防水性能がポイント

カメラ本体は小型化が進み、録画時間も長くなった。ブログなどにアップするにはどれも十分な性能を持っているが、注意したいのは防水性。装着しながら走っていると急な雨でしばらく停まれない状況があるため、日常防水や、防水対策ができるタイプを選びたい。動画などは、手持ちのデジカメとメディアが同じだと撮影動画をすぐに確認できて便利。また、しっかりしたマウントが付属されていると、後から出費がかさむこともないのもポイントだ。



GoPro HD Motor sports HERO

価格=3万6750円

強力な吸盤ステーが付属し、タンクやヘルメットに装着して動画を録画できるオンボードカメラ。最大32GBまで対応し、約8時間の録画が可能。防水ハウジングケースも付属

1位



2位

ブラッキーフェローズ CONTOUR HD 1080P

価格=4万5150円

116gと軽量のアルミボディ。グローブをはめたままON、OFFがしやすいスライド式スイッチを採用。最大16GBまで対応し約2時間の録画が可能

3位

intrada intrada 80S

価格=1万6590円

200万画素、最大約2時間録画できる超小型ドライブレコーダーにより、スポーツやビジネスなど用途は広い



これから発売の注目アイテム

特定小電力無線

STANDARD FTH-107

価格=1万6590円

単3乾電池1本で約30時間使用できる省電力設計のトランシーバーだ



免許や資格が不要な特定小電力タイプで、軽量＆コンパクトな仕様ながら、通話距離や音声のクリア度は既存のインターコムを上回る実力を発揮する。

TANAX VZ-6000

価格=5万2290円

GPS機能によりループコイル式やLHシステム式オービスの検知が可能。専用ワイヤレスレーザー採用



1位

TANAX VZ-3000

価格=2万9400円

有線レーザーにより確実に警告音を知らせるとともにリーズナブルな価格も実現。バイク専用設計で防水対策も万全



3位

サインハウス BIKE RADER SH001R

価格=5万2500円

バイク用防滴液晶ディスプレイ付きGPSレーダー探知機。ターゲットは全50識別で最先端の探知システムを搭載

2位



CATEGORY

レーダー探知機

進化型も続々登場

従来は音声やシグナルで取締りの警告を行う方式が主流だったが、最近では液晶画面の採用で多様な取締りに対応したり、情報が更新できるタイプも登場している。ただ、全ての取締りに対応できる程万能ではないので、レーダーを買えば速度違反などで捕まらなくなるという考え方は止めておこう。取締りに対する注意を促してくれる、安全対策のアイテムとして捉えたい。